京城新聞

妄言妄評（十）

栗狭生

▲一度口を開けば青年と叫び、意氣を鼓して恰悧を迎へ、學生は卒業後の仕官若しくは偉人となりて俸給を得るを目的として學業を勵みたり、其結果世は凡べて平凡と化せりき、使はるゝ人間のみ多くして頭領たるべき人物は缺乏せり、見ずや方今の人物を、上は總理大臣より下は人力車夫に至るまで其人格に余り大なる差違を見ず、大臣に接したり迚余り豪しとも思はず、車夫馬丁に接して詫する決して馬鹿に非ず、畢竟之れ鈍栗の脊競べのみ、世は自然平凡に飽き果てたり、單調に倦み盡くしたり、

▲時代は將さに推移せんとす、時代は偉人を要求し來れり、小利口小才子は將さに排斥されんとす、意氣を尙び義を重ずるの風は起らんとす、權利義務の西洋思想は淳化して尙武の志想は湧起し來らんとす、世は英雄豪傑の出現を渇望せり、

▲時勢は偉人を作り、偉人は時代を造る、今や鬱屈して將さに伸びんとする猛烈なる潜勢力は顯はれん、時代精神を發揮すべき人物早晩來るべし、帝國の大陸政策は其時に於て活躍すべけん乎、對外政策の振はざるや久し、國民は憤慨せり、之が發展を策する大人物の出現を俟つ、恰もユダヤ人の豫言者を俟てるが如し、夫れ帝國の發展期は來れりと叫ぶもの何時來るべき乎、

●忠州旅行記

三十日忠州 清風

七月二十二日の晝であつた、部長から一寸來いとの事で何事か知らと部長の室へ出たら君ね、相談があるが少々危險な處だから命令はせぬが、ドウだ忠州迄行つてくれぬか、用向は此れ〳〵だが途中暴徒が出るかも知れぬ、其れで行くか行かぬは君の隨意だ若し行くなら行き給へと云ふ事である、其の用向きと暴徒とは大に關係がある事柄なので少々面喰らつたが、生來旅行好きと來て居るので、危險と云ふ考へは忽ち消へて旅行の趣味がムラ〳〵湧いて來た、宜敷う御座います參りませうと答へた、處が僕の答への余りに突然で急だつたので部長は念を押されたが、僕は此の時は早や危險等の考へはない、唯旅行の空想に驅られて居るので、否や大丈夫です行きますの一點張である、で部長は君は別に差迫つた用事もなかろうから其れなら行く手續をし給へと言はれたので、早速其の用意に取掛つた、家に歸ると家族等は盛に旅行に反對する、命令ならば兎に角命令でもないのに自ら進んで希望するなんぞは命知らずだ、餘り無鐵砲だ困つた人だ、お止しなさい等と、散々攻擊交りに止める、此の時は數萬言の忠告も馬耳東風で、書棚から朝鮮地圖や、東國輿地勝覽等を取出して、旅行地境の地勢や、名所舊跡を調べて、身は已に旅行の人と化し清州の平野、忠州の山水に遊んで居る、友人知己は僕の旅行には多少の憂慮を有して居る、其れは忠清道は儒生の巣窟、暴徒の根源地であるからだ、然し暴徒の根源地は、今や巨魁の殲滅と守備隊の追討とに依りて四離、滅裂の有様で、江原、咸鏡の方面に據つて居るので、昔日の如き危險はない、唯時々草賊の蠻の往々出沒する位のもので、我が兵を見れば遠く潰散すると云ふ有様である、其れに久しく朝鮮にも住んで危險を冒した旅行も度々やつて居る僕は草賊位のものと、高をくゝる丈けの確信は持つて居る、唯僕の恐るゝ處は嶮岨峻坂の行路と炎天の二つである。

支配人部長其他諸士の懇篤なる注意の下に八月二十九日一人の友と共に、草鞋脚絆の輕裝で南山町の家を出て、南大門驛に着いた、フト、見ると呑氣な面に、何所となく落ち付き兼ねるやうな、不得要領な面持ちで白雨と目池の二人が立つて居る、やあどうしたと云へば、白雨君が歸るから送りに來た、君はどうした、僕か、僕は忠州に暴徒討伐に行くのぢやと云へば、其れは危險じやと眞目面になる、兩人共に同じ事を云つては笑ふ、釜山行きの汽車は着いた、鳥致院迄の赤切符を買ふて汽車に乘つた、係長の竹村氏は態々汽車場迄僕を送つて來られて危險のないやうに用心せよと注意された、發句屋の牛人が來た、後ればせ靜岐も來た、牛人が豪ひ扮裝で何處に行くと聞ふから、忠州じやと云ふ、何の用じやと云ふ、此れ〳〵の用じやと答へた、其りや危險じや、爆裂彈持つてるよりも危險じや、香典の用意して置かう等云ふ、兎角する内に、發車鈴が鳴る車掌が笛を吹く、送る人送らるゝ人の言葉が八釜しく交換さるゝ、汽車は轟々の音と共に走り初めた、暫くすると白雨君も無聊と見へて僕の方へ來た、韓國の無趣味な事や、東京の變化等、有り觸れた話は、話の切るゝ毎に引出さるゝのである、車内は中央東側にある我々の一行と其西側に對座せる支那婦人二名我々後に夫婦者一組、尤も南方には請負人らしきもの二名隣席には東京へ行くと云和裝の韓人一名である二名の請負人らしきは堤防の潰崩橋梁の墜落した處等指して頻に話して居る多分工事の事を談ずるのであらう支那婦人は二人共韓人の妾だそうなが中々巧みに日本語を操る、夫婦ものは多分日本へでも行くのであらうか、二人の間には餘り話はない、時々そうかねーと云ふ事が汽車の音の爲め途切〳〵に聞へる、其の中で聲高く談じ且つ笑ふは我々の一行である、沿路一帶は青々として、禿げたる韓山も今は若か〳〵しく見へるが然し單純は何所迄も單純である、堤防橋梁は殆んど到る處潰崩墜落して居る、草は泥に浸され、道路は川底となり、小川は大河と化し四圍の光景は、轉た大雨當時を追想して凄愴の感が起る、京城を去るに隨つて、田疇遠く廣く、田には數名乃至十數名の韓人が泥に塗れて草を取つて居る、時には農爲太平と大書したる旗を樹て數人一團となり、太鼓、鉦を叩いて頻りに躍つて居るのが見へる、稻株の青々として肥へて居る處を見ると、人に聞く迄もなく、今年は豐年であると云ふ事が知れる（未完）

小說 新不如歸（七十一）

篠原嶺葉著

百合子は招仙閣の前に出ると、汽車の軌道を橫切つて蜿々とした田舍道を迎り、それより一帶の松並木の間に差かゝつたが、其の中程に進んだ時ツト道の眞中に立停つて思はず微笑を漏らすのであつた、それは敏男と新婚旅行のために招仙閣に滯在した當時娛しさうに手を取合つて此松並樹の中を徉徊する時、しかも今自分の立停つた所で十七八の田舍娘に出逢つた事を思ひ出して言ひ知らぬ懷かしさを覺ねたからである、寸時は去りも得やらず種々と歩み出して一つの大きな巖のある場所に出た、そして病氣の事などは打忘れたかのやう、苦しき息を事ともせず、欣々として巖の上に登つて今より五十日の昔、敏男から百合さんも此處へれ掛けーと云はれて、相並んで腰を下した、やゝ高目になつた巖の上にハンカチを布いて腰を掛けた。うして先づ近くの景色に目を移せば、巖の裂目から生へた松の木も繁らずあれば彼の敏男が變な手付をして數へて下れた、ヌツと手を伸したやうな松の木もある、ツイ目の下には緩かに寄せては返す女波男波がパタリ、パタリと曲を調べて居る、又遠く海の彼方を見れば穩かなる海原は眞帆、片帆の船を浮べて、昔ながらの活畫を示し、墨繪の如き冬の遠山は、まだ白き衣を着けずして淡靄の中に聳へ、凡を目に映ずるほどの物は、一つとして變りたる態もなけれど、曾ては愛し愛された良人と共に輝く未來の希望など睦じく語合たるに僅か五十日餘を過した今は、戀しき人と又語るべくもあらぬ悲しき運命に陷りたるさいわるに身は思ひ寄らぬ不治の病に襲はれて假令ば燈火の油が盡きんとするにも似て、目立ちてこそ見ゑぬけれど、日一日と肺の腐蝕しつゝある、世にも哀れなる境遇に沈みたる身の、只一人此處にこの景色を訪るゝ果敢さに思はず胸せまりて、潸乎と淚を漏した。

「本當に思出すと悲しくなつて來る、此の以前此處に來た時は、那麽樂しい事は生れて始めてであつたが、僅か二月經つか經たないに、もう這麽哀な境涯に沈むと云ふは何と云ふ不思議な事か知ら、敏男さんは豈夫不在中に私が離緣なんと云ふ情ない目に逢つた事も御存じないで、れ別申した時の百合子で居ると思つて樂んでれ歸りなさるであらう……莞爾と笑つて汽車や船に後押しを付けて急いで歸ると、御常談有仰つたれ顔が目前に見ゆるやうだ。」

と密と淚を拭ふて、又感慨に沈む樣子であつたが、思ひあまつた態で、

「……れ歸りなすつたら、嘸吃驚なさるであらう、うしてれ母樣が足柄を倨々云ふ事情があつた爲に離緣爲たと有仰れば、何と思へなさるだらう——、眞個私が那麽邪道ならぬ事を爲たと思ひなさるであらうか、いや〳〵豫々私が足柄を可厭がつて居る事は能く知つて居なさるから、豈夫那樣事を信じなさらう理はない、して見ると母樣と私の間に何か事情あつて離緣されたと心がれ注きなさるに違ひない……いや〳〵あゝ云ふ母樣だから必然眞實しやかに有仰るに相違ないから、眞個私が道ならん事を爲たものとれ憎しみなさるかも知れない、然うなつたら私奈何すれば宜いか知ら……」

と、其眞白き手の頭を胸にあてゝ下々に心を傷ますのであつた。

鐵道全線開通

○當分の内京仁間及京義線列車は修繕工事の進行に應じ臨時變更時刻に依る

○京義線臨津江長湍兩驛間に於ける臨津江橋梁修繕中に付當分（約一週間）旅客は假橋徒步乘換への事

○大貨物臨津江經過のものは斤扱の食料品及速達便扱に限り取扱候事

明治四十一年八月

統監府鐵道管理局

京城新聞

文官任用令に就て感あり

韓國の現今は創始の時代なり、數百年の弊習を打破して新制度を建てんとするの時なり、統監府設置以來新法雨の如く降り、韓人官吏は之が運用に苦み漸く日人官吏に依りて其道を辿らんとするの狀態ならずや、多數の官吏すら斯の如し、況や人民に至ては唯夫れ茫然たるのみ、韓國地方の狀態を知るもの豈新法令を布くの早きを感ぜざるものなし、韓國現時の文化程度は甚だ低く、我國文化の程度とは千年以上の差ありと云ふも決して過言にあらざるべし、人能く我國の維新當時と比較するも、幷は雲泥の差違あるなり、物質的進步に於ては或は比較し得らるゝも精神的文化に至りては啻に雲壤の差異ならず、我國は維新前にありて既に歐米の文物を咀嚼するの頭腦を有したり、斯く懸隔せる我國の維新當時と比較して韓國民を律せんとするに至りては誤れるの甚だしきものなり、然るに我國の法令と格別の差違なき新法令を續々發布して此幼稚なる思想の韓國人を律せんとす費用のみ多くして成蹟の顯はれざるは素より當然の事なりとす、今回發布せられたる文官任用令の如きも亦其一ならざらん乎、理論に於ては或は立派なるものならむ、之れ恰も南洋の土蠻に向て精巧なる理化學的器械を與ふるにも似たらん乎、一見粧飾の美なるに奇異の感を起すも、複雜巧緻の機關は說明するも會得せざるなり、之を使用せしむるには先づ頭腦の養成より始めざる可らず、新法令と韓國人とは聊か之に類するの觀あるにあらずや。

韓國の現狀は未だ文官任用令を要する時代にあらざるなり、行政機關の如きも斯國程度の狀態よりすれば現今の如き複雜を要せざるなり、從て吏員を採用するにも嚴格なる規程に依らず、未開の人民を利導するに適當の手腕あるものを撰拔するを要す、一も二も文明式制度に依るべきの時代に非ざるなり、惟ふに統監府の遣口が韓人を日本人同樣に取扱はんとするが抑も誤謬なるに非ざる乎、余輩の考ふる處にては韓國政府に今日の如く幾多の大臣すら置くの必要なく統監の撰任により二名の總統官を置けば可なり、此二名をして各部の大臣を兼任せしむれば可なり、實際の事務は既に今日に於ても次官に依りて決行せらるゝなり、幾多の大臣を設けて外觀上文明國の如く粧ふの必要なし、斯の如く二名の總統官を置て宮廷及人民に對して責任を負はしめ、施政の方針は統監の指示に從ふとせば簡明にして實際の行政にも差支なからん乎、創草の時代に於ては成るべく簡明直截を主とせざる可らず、徒に法文のみを整へて繁雜ならしむ可らず、法は死物なり之を運用する人に依りて活く、余輩は當局者に向て行政機關の複雜ならざらんことを希望して止まざるなり、

●對星樓茶話

△言論の自由を抑壓するは尤も不合理にして尤も卑屈なる政略なり、斯くの如き政略を用ゐて居る間は官民の衝突、不和、反目は決して排除致し難く候。

△京城日報子が民長官選を辨護するに反してソールプレスが修正說を唱ふるを見て、官撰說が統監府側に於て重要視せられざるを推測し得らる。

△折角の序を以て韓國政府に獻策仕候殖民學研究のため在韓廷邦人官吏中の秀才を選拔して歐米各國に留學せしめ候はゞ、日韓共通の繁榮のために不少効驗可有之候。

△天に大雨ありて地に洪水となるは各位御實見の事にて必しも不穩の文字に無之候、秋聲天に在り、秋風地に吹く、乾坤の一快事を期待致候。

△大同會、東亞教育會の韓人連が妓生を携へる位は、韓人間に於て常事のみ、之を目して墮落と批評し、腐敗と評論致候事、近來の奇聞にて候、其程議[illegible]の要求と可申也、ボ連に要求するは隨分過[illegible]る邦人の狀態より[illegible]花月淸華各青樓に出入す[illegible]目撃せられ度候

△洗劍亭に臥して清泉を汲み、晨に起きて西門の蓮花を賞し、南山の溪谷を攀ぢて草花を折り、漢水に棹して鮎を食ふ、漢城の夏も亦た淸趣少しとせず、只だ之を行ふの閑人無きのみ。

東京電報

▲後藤寺内の不正

後藤前滿洲鐵道會社總裁と寺内陸相及び二三御用商人の間に不正事件ありとし猶與會及び政友會議員中には其摘發に着手せるものあり

▲日本興銀の總會

日本興業銀行の株主總會は添田總裁今期の成績及び滿洲鐵道債の經過を述べ今期より年八步の配當をなすに決す

▲各省の事業繰延

各省豫算は總額六千萬圓の事業繰延を行ふ事となり各省共少くとも二割の繰延をなす筈にて十日迄には決定する筈

▲三重丸事件

ニコラエウスクにて死刑を宣告されし三重丸乘組員は露都なる高等裁判所へ控訴せりとの報ありたり(三日發)

▲横濱の米艦歡迎

横濱市は米國回航艦隊歡迎費として二萬五千圓の支出を可決し旗艦以上の乘組員を招待し園遊會を催す筈又對米貿易に關係ある銀行其他發起となり下士以下の歡迎費を募集し居れり

▲手形交換大會決議

全國手形交換所大會に於て左の決議をなせり

一、租税に依らずして財政の許す限り公債償還をなす事

一、公債償還をなすは每年六千萬圓を下る可らざる事(以上四日發)

雜報

●軍司令部會議

昨日午前十時より長谷川軍司令官以下幕僚岡崎師團長明石憲兵隊長松井警務局長丸山警視總監等軍司令部樓上にて暴徒討伐に關し會議したるが尙本日も引續き開會する筈

●警察部長會議(第二日)

四日は午前十時開會新裁判開廳に關し訓示演說をなす筈なりし倉富法部次官は參與官會議のため缺席し國分檢事總長出席して新裁判所開廳に付犯罪檢擧に關する訓示演說をなし午後藤田駐韓軍々醫部長出席して傳染病豫防と軍隊衞生に關する地方警察官の注意に就き演說し午後二時散會し尙本日は午前拾時開會し事務の打合を爲す筈なり

●大臣會議

昨日午前十時より各大臣は統監官邸に參集し定例會議を開けり

●參與官會議

昨日午前八時より統監府會議室に於て各參與官出席し定例會議を開けり

●韓國國祭日に就き (某外人談)

韓國政府にては今回祝祭慶節日を定め公告の手續に及ばれたるが其祭日表中日本の天長節が見當らぬ樣なり元來宗主國の大國祭日天長節の如きを保護國が自國の國祭日として祝すべきは當然の事にて其例は英國と其各保護國及佛國と其各保護國に因つて知るを得べし韓國が日本の保護國として宗主國の天長節を不祭日と定めたるは大に禮を缺ぎたるものには非るか云々

●即位式紀念式

本月二十七日は隆熙皇帝の第一回即位紀念日なるを以て漢城府民團にては盛大なる祝賀會を開かんとて昨日石鼓壇に於て協議會を開きたりと云ふ

●邦人暴徒被害者

韓皇陛下は暴徒のため害を蒙りたる内外人救恤金として御手許金拾萬圓を下賜され内部大臣は此れを被害者に分與するため外國人に關するものは統監府の調査に基き救恤金を一纏めとして同府に依託すべき事は既報の如くなるが今統監府の調査したる昨年七月十九日即ち暴徒發生以來本年七月七日迄の日本人被害者は其の殺されたるもの百二十五人にして燒棄されたる家屋三十二戸なり救恤金は内外人共死者一人に付拾圓宛燒家一戸に付十二圓宛の割合にして此の金額合計千六百三十四圓となり而して他の外國人(實際には淸國人のみ)に關する調査は未濟に付取敢へず日本人に對する右の救恤金を近々内部より統監府に引渡す筈也と

●北韓漁業航路開始

北韓殊に鏡城灣附近は水產物豐富にして就中鯖鰤の漁獲は最も盛況を極め目下は鯖漁の季節を終りて鯛鰤の漁季に入れるが淸津に於ける鯖の市場は其の最も漁獲多き時に當りては一尺五寸乃至二尺の大鯖僅十錢乃至十五錢に過ぎず其の他の魚類も此れに準すべしされば今敦賀淸津間の航路を開始し此等の魚類を氷藏して大阪神戸に輸送せば三十六時間にして達する事を得前記の鯖の如きは市價優に二圓乃至三圓を呼ふべく該航路の開始は北韓漁業の發達上極めて緊急に屬すと某當局者は語り居れり

●荻田某の放言

民長官撰問題に付統監府書記官荻田某の談話なりとて釜山新聞の傳ふるところ如左

民長官撰問題は各民團共八釜しい樣であるが之れは從來の民撰を官撰に爲たから議論が出る樣なもので初め内閣から廻つて來た民團法施行細則の内には民長は官撰となつて居た△隨て統監府でも新たに起つた問題でなく以前から其議があつて多少の議論もあつたけれども鎭南浦の如き平壤の如き將た龍山大邱の如き民長問題は常に居留民の鄕黨的紛爭の基となつて民團の發達を妨げ其弊害甚しい爲めに該府令の發布を早めた次第である△釜山京城仁川の三ヶ所は左樣でもないが他の各民團に至つては實際自治の能力がないと斷言してもよい京城の各新聞が筆を揃へて盛に反對論を書いて居るのは要するに感情の爲めで惡く言へば紙面埋めの爲めだ

●仁川議員の態度如何

仁川民團議員の民長官撰に對する態度は甚だ冷靜なるが如きも其實は然らず過日來より四五議員は寄々其前後策につき密議を凝らしたるが愈々本月中旬開會の卅回民會に於て一大問題として論究すべく其結果は無論滿場一致を以て反對の態度を執るに決すべきは疑ふべからず而して其反對の方法については京城民團議員と同樣の態度に出るか將又直ちに總員擧つて辭任を申出するか左なくば尤も靜穩に然も皮肉に苟も民長官撰を飽迄遂行せんとならば民團の行政は全部官營となされたく之れ民長官撰が法規上の矛盾行爲なるに不拘統監府は强ひて敢行せんとする如く民團行政の官營を敢て爲し得ざるにあらざるべしといふにありて何れか玆十數日中には民會に一花咲かす事なるべし

●新式電話交換機

▲京城局電話交換機の改善▼

▲輕易にして利便なる交換機▼

▲復式交換機 を使用するの要を見るに至れるなり本機は單式交換機の最も缺点とする中繼接續を要せざるものにして何れの加入者にても一人の交換手にて直ちに接續し得るものなり而して此度當地郵便局に於て採用したるものは共同電池式復式交換機一に中央電池式交換機とも稱し復式交換機中最も優等のものにして現に米國等に於て盛に使用せられ居れり之の機械によるときは從來の如く加入者自宅に電池を設置するの必要なく凡て電池は中央局に集合せるもの故中央局にては大ひなる蓄電池を設置し凡ての電氣は皆之の蓄電池より供給する事となり居れり

▲本配線盤 本配線盤とは外部より引込みたる加入者線を取り付くるものにして本機の目的に三あり(一)避雷裝置(二)障碍試驗(三)加入者線切替

▲中間配線盤 中間配線盤とは本配線盤より交換機に至る間に裝置すべきものにして本機の目的は加入者使用の繁閑を等しくし交換手の勞力を平均せしむるにあり

次に新機械の變更後加入者の注意すべき事項は(一)今回加入者宅に裝置したる電話機は「ソリッド、バック」形なるを以て從來の「デルビル」形の如く送話口より二三寸を離れ通話するときは通話非常に不明となるを以て送話口に唇を觸るゝ位に近付け通常の音聲にて通話する(二)通話中は如何なる事故あるも受話器を機械掛金物に掛けざる事等なり

尙記者は昨日京城郵便局に赴き如上の談話を耳にせし上懇篤なる係員の案内によりて交換室に至り詳密なる說明の下に實地に就て目撃する所ありしが其規模の宏大にして機械の嶄新なるには不思門外漢の記者をして一驚を喫せしめたり因に之が實況に就て種々說明の任と試驗の勞とを取られし係員の厚意は記者の幾重にも鳴謝する所なり

●朝鮮日々社園遊會

朝鮮日々新聞社移轉披露の爲め催されたる納涼園遊會は既記の如く一昨日午後七時より和城臺公園に於て開催されたり先づ來賓一同席に着くや今井主幹起て園遊會開催に就て一應の挨拶あり次て熊谷民長來賓を代表しての答辭、戶叶大韓日報社理事の新聞社を代表しての答辭ありて夫より宴に移り酒間は花月、掬翠、淸華等各料理屋より繰り出せる紅裙斡旋し此間軍樂隊の奏樂及び仕掛花火、打揚烟火、白川一座の喜劇、淸華亭、花月藝妓の手踊等演ぜられて來賓の興を添へたるが此間模擬店に至りて汁子を啜るものあればビヤホールを襲ふものありて興は凉風の加はれる共に益々湧き來り猷酬は南山に谺する煙花の音響と和し和氣靄々の裡に隨時歸散したるは同十時過ぎなりし當日重なる來賓は明石憲兵少將、宋内部大臣、岡、俵兩次官、丸山警視總監、松井警務局長、各部書記官、民間よりは市原第一銀行總支配人、熊谷京城民長、淵上龍山民長、兩會議員、實業家、辯護士、新聞記者及び各地方有志者等にて無慮八百餘名の多數にて近頃稀有の盛況なりし尙當日の來賓一同に對し團扇及び烟草、マッチ、紀念繪葉書を贈與せられたると設備の周到なりしとは參列者一同の感謝する所なりし

●久保田理事招待會

統監府の石塚、小松、中山、三浦、村田の諸氏内部の岡、松井、中原、澤田、岩井、窪谷、永田、岡田、壹岐の諸氏及び俵學部官長[illegible]稅總長其他は歸朝の途次來韓せし久保田理事を一昨二日午後八時より花月に招待し晩餐會を催せり氏は一昨夜行列車にて出發歸朝する筈なりしが此れがため延期して昨朝八時三十分發南大門發急行列車にて出發せり

●賊徒討伐情況

△慶南陝川守備隊の上等兵以下八憲兵三名は變裝斥候となり七月廿九日陝川西方約四里竹田附近に於て賊十八を殪し火繩銃十四其他雜品若干を鹵獲す

△全北龍溪院守備隊の下士以下六名は七月廿六日龍溪院東北方一里に於て賊一を殪す

△光州騎兵中隊の上等兵以下六名は七月廿九日淳昌西方四里に於て賊約二十を討ち五を殪す我兵一名負傷す

△全州東方留川里分遣隊の下士以下五名は七月廿二日鎭安西方五里の藥岩に於て賊二を殪し同日更に其附近に於て約三十の賊を討ち十三を殪し二を捕へ銃十一を鹵獲す

●仁川信用組合と定欵

仁川信用組合は過日八坂樓に於て創立發起人會を開き愈々其筋に認可請願をなすに決したるが尙未だ定欵審查委員の撰定を終らざるにつき不日發起人中より十名の審查員を推撰し定欵審查確定の後請願の手續に及ぶべしといふ

●護衞巡查請願

黃海道チン山及ハンバキ山附近の漁船に薪炭、飲料水、食料品の供給及漁場變更の際は曳船として小蒸汽一隻を出すを例とせる仁川松阪町安田淺次郎より途中海賊の襲來に備ふる爲の護衞巡查を附せられたき旨仁川理事廳に請願せり

●茶話會の好況

韓國各大臣及び中樞院顧問李根澤、閔泳徽、權重顯の諸氏等時事を研究する目的を以て組織せし茶話會は入會者頗る多く好況なりと

●慶應行商隊

慶應義塾商業學校の生徒を以て組織せられたる行商隊の一部は目下當地に來り原金旅館を本陣として此炎暑にも不拘日々八方に手別けして雜貨の賣捌を試み居るとの事なり記者は相當の身分を有する家の子弟が額に汗することを實習する心がけを嘉みし世人に向つて右行商隊に同情を寄せんことを希望するものなり

●仁川の電話加入者

仁川七月末の電話加入者總數を聞くに六百十四人にして六月末は六百六十三人ありしと

●恒吉少將

南部守備隊長恒吉少將は土方副官を從へ一昨日入京天眞樓に投せらる

●三氏の鹿島出張

仁川理事廳副理事官高木安太郎、檢事代理宮田深藏及岩田辨護士の三氏は例の鹿島王事件取調の爲め來る十日同島に出張の筈

●愛國婦人會當番幹事

愛國婦人會韓國本部當番幹事として是迄村上、三宅、熊谷、中村、巨智部の各夫人盡力中なりしが三ヶ月更替滿期に付今般松井、遠家、國分、頭本、蜂尾の諸夫人八月より十月迄當番幹事なる

●岩本英夫氏

訴訟用事を帶び先日東上元田肇氏の許に滯在中なりし同氏は一昨夜無事歸着したり

●赤倉技師の出張

赤倉臨時財源調查局技師は平安南北道沿海地方に於ける製鹽好適地の調查を命ぜられ技手主事數名を從へ本日出發す

●近事片々

▲衞生組長相會し民長官撰反對の意見を發表し民團議員に聲援を與ることに決議す

▲府令の下に活動する民團役所補助機關たる一部の職に居るは屑からず辭退せりと

▲衞生組長會解散し新に町内の便宜を計るため町内申合せて組合を設る事に決議す

▲居留民の意志は漸次發表せらるゝ之れ居留民として當然の事なり官憲須く反省せよ

▲御用紙筆を揮て居留民に反對の意向少しと辨ずれ共事實は如何とも抹殺す可らず

▲各地の民團も頻に反對の氣勢を發揮し來れり此事あるは當然當局者は備も不明也

▲地方民團代表者續々上京するの模樣なり聯合大會の開かるゝも必ず遠からざらん

▲若し當局者にして非を悟らば一日も早く撤廢するが穩當也執拗すべき時にあらず

▲御用紙の如き無禮の筆を弄したる事に就て宜く在韓居留民に向て謝せざる可らず

▲如何に御用紙と雖も在韓居留民に對して自治の能力を欠く杯とは何たる無禮ぞや

▲等しく帝國民の一人として能く同胞を侮辱せる筆を弄せる者ぞ唯唾棄の外なし

▲斯る暴論を以て居留民に對する故に官民の融和を缺ぐ也宜しく膺懲せざる可らず

▲各地民團代表者來りて大會を開くの時は之等も決議するの必要あり大に奮起せよ

▲文官任用令の閣議に上りし時宋内相大に反對したりとの說あり果して事實なりや

▲如何なる動機より反對したるかを詳にせざれば尙ほ未だ讃める譯には參らざる也

▲自己の立場より部下の任用に不都合なる爲め反對する杯にては却て醜劣を責めんとも韓國現時の程度より尙早を以て反對したるならば卓見と云はざる可らず

▲嚴柱益氏東京に滯在して完用内閣變更の爲に運動すと例の韓人特有の傳說なる乎

▲果して事實とすれば嚴爺甚だ愚劣也今頃東京に御先棒になりて働く者一人もなし

▲滿洲よりの途次立寄られたる久保田滿鐵理事は後藤男の下に次官たるの噂ある也

▲斯人の次官は或は適任なるやも知るべからず今回の歸朝是が爲にあらざる乎否耶

▲盛文堂主西河通徹氏逝去せりと鄕里宇和島に於て噂あり終に二新聞迄に揭載さる

▲鄕黨爲に驚き書を發して京城の知己に問ひ來る其人西河氏に之を告げ洪笑したり

▲西河氏書を鄕黨に送りて曰く死去の際は彼是御世話に相成候今や幸に頑健なりと

▲鄕黨の驚喜知るべき耳さるにても隨分妙な噂も立つ者なり西河氏の壽や長からむ

(三) 第廿七號 (水曜日) 京城新聞 明治四十一年八月五日 (明治四十一年七月三日第三種郵便物認可)

短編小説

愛（二）

青楓生投

折から薄暗い、長い廊下に、足音がするので、男女の話は途絶れて仕舞ふ。

其處へ肥え太つた愛嬌顔の、多分此家の女中であらう、黒塗の丸盆にビールを載せて這入つて來るのである。ビールの瓶口からは、ブツ〳〵と泡が吹き出る。

「どうも失禮致しました、お構ひも致しませんで……サア旦那、一つお酌致しましょう」と嫣然する。

「今晩は、何卒緩つくり遊んで居らつしゃいな、他に客と云ふのも、二宮さん一人ですから」

「二宮……薄い髯の男か……」

彼れの眼は、怪しくも光つた。

「左様で御座います、厭なデレ〳〵した男よ。……あれでも會社では、中々に巾が利くんですつて」

と男女の顔を見較べ、嫣然笑つて立つた。

寂とした廊下に、バタ〳〵と草履の音が聞ゆる。夫れもだん〳〵細くなつて、遂に聞ゆなくなる。甲走つた聲で、何やら言ふのが幽に聞ゆる。室内は、又森閑として來る。月光が、簾越からさしこんで、生ぬるい風が、厭な臭氣を送つて來る。

「開して頂戴ね、美江さん」

彼は、思ひ出した如くに、再び話を續けるのである。

「緑陰濃き故山の夏は、恐らく人生の均しく愉快と絶叫するところでしやう、だが當時の僕の歸省の觀念は、夫れよりかも仍ほ貴女に逢ふのを、甚麼に樂しみにして居たでしやう、上野を發車してから、彼の寂しい〳〵ステーションに着驛までといふもの、僕の此の胸中は、實に貴女に對する空想で、滿たされて居たのです、全くですよ、夫れが遂には空なかつたのですから、落膽は又非常なものでした」

「貴方がさう仰やつて下さると、妾……妾……實に嬉しいわ」

涼しい眼元に笑を湛はして、甘ねるやうに頭を傾げて、男を瞻める。男は瞻められて眩しさうに顔を外らすのである。

短夜の夏の月は、高く〳〵冴ゑて、風も漸く冷かになつて來る。往き來の人の足音も、絶え〴〵になつて、何處ともなく聞ゆる按摩の笛さへ、何んとなう身に沁みる様な。時計は、ハイ十一を打つた。

「アヽ、最う十一時よ、遲いですわね……妾、貴郎に醉ふよ……、オヽ、熱い……、赤くなつたでしよ……ね貴方」

袂より花の顔にも、紅葉を散らしたやうである。女はそのまゝ男の膝に凭れるのであつた。男は夫れを拂はうともせず、「僕も大分酔つて了ひました、だが愉快ですね美江様、十年懐舊の友と昔を語るとは、真に愉快ですね」

表座敷から、賑むそうな吟聲が聞へる、無論二宮の聲である。佛蘭西教會堂のダラ〳〵坂を、明治町の方へ下りたところの四辻を、左へ折れて凡そ二丁許行くと、右へ這入つた小路の奥まつたとこに、千歳樓と云ふ小奇麗な待合がある、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は裂と滴つて居る。

●溺死体漂着　去る一日午前〇時三十分頃年齢三十歳位の韓人の死体一個麻浦度支部煉瓦工場前の路傍に漂着したれば直ちに警官醫師臨檢せしに死後五日を經過したるものにて身長は五尺二寸五分位にて体質肥滿して健康体なるが多分前日來の降雨にて漢江増水の際誤つて溺死したるものにて水流の爲め同所に漂着したるものならんと尚は死体は引取人なきを以て洞長崔春基をして假埋葬せしめたりと云ふ

●自殺と溺死　江原道生れの元順日（二十七）はたる二十四日北署三清洞李世永方に於て阿片を服して自殺、中署壽洞金劉花の長男福成（十二）は二十五日午後誤て井戸に陷り溺死せり

●ヨボ兵の暴行　近衛歩兵第四中隊三等卒宋元求（三十）は去る二十七日午前一時頃グデ〳〵に醉つ拂ひ布德門前に客待ち居りし鄭順景の人力車に乗らんとせしも其一文の錢もなきを見て之を拒みたるにぞヨボ兵威猛高になつて怒り拂り俺を何と思ふか身を近衛の軍籍に置き卒業は陛下の邊り近く護衛申上げ一朝事あるの日は銃を捨て逃る三十六計の逆入なり車夫不情の分際にて國家の干城を輕侮するも程がある如何にして呉れるか見居れと云ひ腕車の幌を破るなどの亂暴を働くを大貞洞派出所の大牟田巡査か認め之を制止せんとせしもいつかな聞入れず却て暴行を加へんとするを以て一應西部署に引致の上京城憲兵分隊に引渡したり

●酌婦の地方出稼　南部警察署長桐原警視が鋭意當地の風紀粛正を期する上に於て尊ふ之が禍根たるべき小料理屋の取締を嚴重になし居ることは世人の既に知る如くなるがソレかあらぬか彼等酌婦共は資本要らずの娼賣を爲すことの至つて危險にして從つて更に實入りの無き所から近來は多少邦人の集合し居る朝鮮内地の新開地に向つて出稼ぎするもの多く現に京義線の沿道たる開城宣川及び其附近の抱川春川金化等の如きは先月中旬より昨今に掛け是等醜業婦の數を増せしとかの噂なるがもし果して實際の現象なりとせば當地に於ける風紀上まことに以て放ばしきことゝいふべき也

●韓人の姦通沙汰　竹洞方漢復方同居柳德三（四十）の妻某（二十）は根が浮氣者で多情者と來てるから少しでも夫の德三より男の好いものと見たら此方から妙な目付するを云ふものなるが此に曲橋と云ふ所に李致順（二十六）と云ふものあり此男亭主の德三よりも三つ年若で男振りも好いので例の如く妙な目付をして誘ひ出したるに致順もいなにはあらぬ稲舟の與るゝまゝに遂に怪しき契りを結びたり夫よりと云ふものは致順のことが忘られず夫の目を忍びては致順と嬉曳きして不義の快樂に耽りつゝありしも阿漕の浦に曳く網の度重なれば露はれ易く何時しか德三の知る所となりてよりは夫婦の間に波風絶ふる間なかりし所一昨日の午後十時頃妻は夫の隙を見計ひソツと家を秘け出で姦夫致順許行かんとする所を德三に見出され引捕へ其不埒を詰りたる後お前が姦夫の宅より衣類諸道具を持歸るに於ては其儘穏便に濟さんも否と云ふが最期命まで貰ふ積りだ返答如何に〳〵とノツ引きならぬ夫の言葉に妻は夫れでは致順の留守を幸ひに一物も殘らず持參すべしとて何一つ殘さず持歸りたるにぞ致順は大に怒り柳夫婦を窃盗罪として警察署に訴へ出でたれば兩名とも目下拘留取調べ中なるが呆れたヨボ夫婦なり

●新聞社員と名乗る不屆者　昨日午前二時頃椒洞五十六統七戸の韓人酒屋白泰植方に三十六七なる二名の日本人入來り山玉（十六）と云ふ賣春婦を相手にそれお酌だそれ酒だオリクリチヨツソなど大平樂を並べながら鱈腹飲んだ揚句我こそは東京時事新報社の派遣員某なり勘定などは此度々と一文半錢も拂はず飛び出したるにぞ白泰植は大に腹を立て此奴テッキリ食逃するに極りたりと警察署に同行して説諭を願ひ出たれば係官は兩名を取調べしに時事新報社員などゝは眞赤な嘘にて大和町一丁目二百七十番戸八田武三（三十）星野五郎四郎（三十七）と云ふ何處の馬の骨とも牛の骨とも分らぬ者共なりしかば懇々説諭を加へたる上酒代七十錢を支拂はしめたる後放還されたり

●贋酒造者捕はる　從來發賣せる龍山川眞田商店醸造に係る蜂印葡萄酒の贋造葡萄酒が去月十八日以來多く京城各商店に於て販賣せらるゝ處より同商店にては嚴しく搜索を行ひつゝ一方警察署へ願出置きたる次第にて其筋にても注意怠りなかりしが此の惡漢こそ旭町一丁目二百八十一番地益田兵之助なること判明し昨日正午警察の捕縛する處となりたり

●家出酌婦引戻さる　本町八丁目料理店緒方方の酌婦吉田チヨ（二十）が過る頃より家出して行衛不明となりたれば之れが搜索方を南部警察署に願出でありしが一昨日午後十一時頃南大門通電車道に一人の女の佇立し居る擧動の怪しきより通掛りたる巡査は之を引致し取調べたるに願出でありし吉田チヨなりしかば懇々其不心得を諭し雇主緒方を呼出して引渡されたり

●自暴騷ぎのお目玉　近頃の不景氣續きで何處の料理屋も其處の料理屋も客足とては猫の足音さへもせざるにぞ斯うも客足が絶へては結構も何も出來た話しではないとソンジヨソコラの小料理屋にて聞く嘆聲なるが本町八丁目十四番戸料理屋玉川樓那香川トミ（二十）も此不景氣の風に吹き捲られ自暴を起した揚句コーマヽヨ不景氣風が勝つか此方が勝つか一つ腕競してやれと雇女の酌婦等一同を二階に呼上げ酒肴は勝手にある飲み放題喰ひ放題唄ひ放題踊り放題の散財を始めたる騒ぎに夜も更て制規の時間となるも騒ぎ止めざるにぞ忽ち安眠妨害と云ふ大鐵鎚落下し散々の大目玉を頂戴したばかりにて不景氣風は矢張り吹止ぬとはお氣の毒さま

●不埒なる車夫　京城居留民團役所書記官松尾宗六氏が三日午前九時米倉町度支部官舍附近通行の際折柄出會したる俥あり生憎道路破損せる故自ら道を避けて俥を急ぎ去らんことを注意せしに俥夫は不埒にも暴言を吐きたるを以て松尾氏は大に立腹し此旨警察に訴へ出でたるに此者は京城組北山幸作と明りたれば昨日午前九時召喚の上嚴しく説諭を加へられたり

●賭場崩れ　蓬萊町一丁目六番戸居住三重縣一志郡中川村字中川二十五番地アイスクリーム行商田中庄三郎（五十）は昨日午前二時頃蓬萊町五番戸當時不在中なる太田銀藏方二階四疊半の室内にて他の五名の者と花札を以て賭博を開張し赤青と勝負の眞最中巡回の巡査に踏み込まれ五名の者等は此体を見て逸早く二階より飛び下りて跡白浪と逃げ失せたるも庄三郎一名は取押へられ花札四十七枚と場錢二圓五十七錢五厘を押收し西部警察署へ引致されたり

●迷兒　一昨日午後八時本町派出所に一人の迷兒を屆出でたるが右は南山町四丁目石川縣士族通信局官吏岡田與治郎長男興吉なること判明し引渡されたり

●放歌してお目玉　三日午後十二時會洞十五統金春西（四十）は南大門通りにて放歌してお目玉を食ふ

●小便料五十錢　長谷川町第一銀行建築所小使南部中染洞金德壽（二十）は一昨日午前十一時同建築場に放尿して五十錢のお灸

●妓香蘭の米國行　義和宮義親王より根引せられ宏壯なる家屋まで買與へられて一方ならざる寵愛を受け他の妓生をして羨望せしめたる妓生香蘭は此頃何に感ずる所ありてか文明社會に立て交際するには泰西の學問をなすにあらざれば交際場裡に立つ能はずとてこれが研究の爲め二三日前米國に向つて出發したりとのことなり

●西大門外のチブス　西大門外橋邊豊藏方同居皇宮警察署巡査安齊長四郎は八月三日腸窒扶斯に罹り大韓醫院にて治療中なるが重体の方なり

●旭町のチブス　旭町二丁目二十四番戸官吏日詰志見（九十）は三日腸窒扶斯に罹り大韓醫院にて治療中

●本町座今晩の藝題　一番目「一花一輪」二番目「千本櫻」役割以下

妹お初（今井）東條義規（石巻）下女お富（伊藤）本田章（葉山）田舍紳士森山（土居）山田仙吉（田宮）大家新平（南郷）倉田幸一（中川）吉光武市（小泉）小田義人（秋山）書生内海（佐藤）書生大山（喜多）東條俊子（三浦）藝者花玉（四位野）藝妓一龍（鳥村）荒井虎藏（白川）

（平）（民）（文）（庫）

▲民團役所の汚物掃除人が一定の場所に糞尿を運搬するを面倒がりソコ等此所等の空地やら廣ツ場に糞尿をブチまけるには實際閉口の至りだ殊に近來は此の横着の振舞甚だしく苦情をいふものが非常に多い現に僕等は一方ならず迷惑をして居る（賤しき人民）▲少し位の行き違ひにて猥りに電話の苦情をいふ勿れ當局者の苦心如何許りぞ萬一粗漏のなきにしもあらざるも夫れ等は白玉の微瑕決して故意にするにはあらざるなり（寶見生）▲お役人の中で一番割が好くて樂なのは何……囑托だらう（麗）▲統監府員の中で一等道樂をするのは誰ですか記者さん御存知（統監府給仕）▲人に依つて各々道樂はありますがドンな道樂ですか參考迄に敎ねて下さい（編輯チヨンガー）▲第一銀行の窓口に居る人はドレも〳〵丁寧だ（預金者）▲南大門外の吉野湯は實際無責任だ客が品物を忘れても一寸も注意して呉れない（運送屋小僧）▲泥峴通りの商家で時計臺を設けたら嘸ぞ市中の偉觀だらう又通行人の便宜にもなる（江ツ戸）▲泥峴の道幅を廣くして電車を通はしては什麼でれますか通行人は何の位喜ぶか知りまへん（道頓堀生）▲風呂錢の四錢は高い三錢にして呉れ（公平生）▲散髪賃の三十錢も安くない十五錢でチヨツツ（コスメチツク）▲警察署の小使は馬鹿に威張る寔に惡い料簡だ（平民）▲憤慨生に告ぐ投寄されたる原稿につきて一應面談したし（係）

老妓 茶羅次の身上話（六）

◎重野博士氷の字の講釋

斯樣して願つて置きやア氷川樣だつて一ツ位は叶て下さいませうずつて重野さんに申し上げると何コホリ川ーーヲイ／＼たちやら夫りやア違つてる成程氷といふ字が書いてあるから氷川と讀むのも無理はないが此神社は氷川神社といふのだといつて教ねて下さいました何しろ先樣は大の學者で入らつしやるから妾もすつかり感心をしちまいましてチヘイそうでムいますかデは何でムいますね氷といふ字は氷とも讀むのでーー有り難ふ存じましたれ陰で妾も一ツ字を覺ねて學者のれ仲間入が出來たといふもんですチと笑いながら宿所へ引き上げました。夫れから東京へ歸ると明治座の火事騒ぎです其處で妾は燒け殘つた座附茶屋さぬきやといふのが懇意でしたから早速見舞をやりましたが此見舞の端書といふのが今だに其處に殘つて居て何時でも笑の種になつてるのでムいます重野先生直傳の學者をふり廻したかつた洒落でも何でもなかつたのでしたがチ氷といふ字は氷と讀むものだと覺ね込んで仕舞つたので火事見舞と書く所を氷見舞と書いてやつちやつたのですーーイ、エ眞正、氷だからでもありますまいか其後さぬきやに行くと冷かされましたチ口惜しいから直ぐ其足で駿河臺の重野先生の所へ驅け込みましてチ御無沙汰の挨拶も何もソッチ除け先生貴方位酷い方はありません妾にウソ字を敎ねて飛んだ耻晒しをさして下さいました惡戯にも程があると怒鳴り散らしたのでムいますよすると先生は何が何だかチットも譯が判らないから妙なれ顔をなすつてヲイ／＼れちやいゝやら何をソンナニ騒ぐのだ落ち付いて話しないかとれつしやるのです其處で氷見舞一條を申し上げますとね流石の重野先生も堪ね兼ねたと見ねてハッ／＼ハッ／＼と横に笑いこけてれ仕舞いなさいましたが暫時經つてから氷と火のれ講釋をして下さいましたのでヤット腑に落ちイヤハヤ面目だまを踏みつぶして顔から火が出る樣でムいました

重野先生には宜く御贔負になりまして邸宅へも度々伺い家族とも極くの懇意でムいますソンナ工合で先生のれ座敷へは限つて呼はれ／＼致しましたが死んだ團十郎さんが宜く御一所で芝居の事に就て種々なれ話をなさるのが定でした御存じでもムいませうが彼の團十郎さんといふ方は自分の氣に向かない所ですと何といつて寄越しても出掛けません宜し又無據所顔を出したにしろ默然で居るといふ質でしたが重野先生とは宜くれ話があつて何時も面白く遊んで歸へり／＼なさいました

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番